

令和4年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22006	事業名	景観づくり推進事業			
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()					
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		予算科目	会計	01:一般会計
		基本施策	01:魅力的な都市空間の形成			款	08:土木費
		施策の方向	03:安らぎのある都市の形成			項	04:都市計画費
		重点プロジェクト	-			目	01:都市計画総務費
事業期間	R 4 年度 ~ R 5 年度	主な根拠法令等	景観法、景観計画、歴史的風致維持向上計画				

評価分類	A1
------	----

担当部署	
部	建設部
課	都市整備課 都市計画G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	都市マスタープランの基本理念である「都市の価値と魅力(都市力)の向上」を図るため、市の特色を活かした景観づくりを推進し、次世代への継承する良好な景観と、新たに創造する景観により市の魅力を向上していく必要がある。	地域住民及び事業者	本市の特色となる歴史的資産であるまちなみ景観や周囲を囲む自然景観等を次世代へと継承し、その歴史的資産、自然景観と調和する景観づくりを進め、景観形成による地域の魅力向上を図る。	景観計画に基づく景観重点地区の指定の追加、景観形成基準の検討を行い、景観計画を改定する。

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
③ 事業の実施状況 (P・D)	事業計画	○重点地区指定検討	○景観計画改定		
	活動実績 (計画通り実施できたか)	景観重点地区の指定に向け、景観形成基準の検討を進めるとともに、西町、万町、西丸町において地域懇談会を開催し、地域の意見聴取を行ったが、重点地区指定に向けた方向性の合意に至らなかった。			
計画額	事業費	2,000千円	0千円	2,200千円	
		国・県支出金			
		地方債			
		その他			
決算額	事業費	2,000千円	0千円	2,200千円	
		国・県支出金			
		地方債			
		その他	0千円		
①期間内事業費(R4-7)		4,200千円	②期間外事業費(R8-)	0千円	①+②総事業費
					4,200千円

(令和4年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	2,000千円
次年度への繰越額	2,000千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	景観計画の改定 現行の景観計画を見直し、景観計画の改定を行う	成果	計画	計画値		1		
				実績値				
				計画値				
				実績値				

事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)	
⑤ 成果 (C)	B 景観重点地区での景観形成基準について検討を行い、基準案及び図解案を作成するとともに、重点地区指定候補地の地域住民(6自治会)との懇談会を3回開催し、地域住民の意見を聴取することができた。また、景観重要公共施設指定予定の道路管理者と協議を実施し、情報を共有することができた。
	まずはまず成果を得た

事業の対象	事業の目的
地域住民及び事業者	本市の特色となる歴史的資産であるまちなみ景観や周囲を囲む自然景観等を次世代へと継承し、その歴史的資産、自然景観と調和する景観づくりを進め、景観形成による地域の魅力向上を図る。

(再掲)

事業の達成状況等を踏まえた課題事項	
⑥ 課題 (C)	景観重点地区指定には、地域住民との合意形成が必須となるが、理解を得るのが困難な状況であることから、今後も理解を得られるよう、丁寧な協議を重ねる必要がある。また、住民理解を得るためには、補助制度等、新たな支援策も必要となり、それについても今後検討していく必要がある。

方向性	
⑦ 事業の展開 (A)	継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する
改善・見直し内容	
令和5年度で対応する(した)もの 自治会役員とも協議し、地域懇談会やアンケート調査等の実施について、地域の実情に合わせた開催等を検討、実施し、地域の合意形成を丁寧に図っていく。また、懇談会等で使用する資料等について、分かり易いものとし、理解が得られるよう努める。	令和6年度以降で対応するもの

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
⑧ 履歴	成果判定	B		
	事業展開	継続(現状維持)		

1次評価者	建設部 都市整備課 都市計画GL 黒田 康史
最終評価者	建設部 都市整備課長 藤尾 春樹